

令和7年2月10日発行

雪だるまファミリー

(写真：十日町高校写真部)

CONTENTS	No.84
議会をPick-Up!	2P
議案の審議結果	3P
一般質問	4-11P
新年度予算要望	11P
政務活動費による活動	12-13P

● 議会をPick-Up!

12月定例会

令和6年第4回定例会

会期 12月6日～16日（11日間）

審議の結果は、2ページ下段から3ページに掲載

12月の定例会は、市長提出議案40件、請願3件、議会提出議案4件を審議しました。

Pick-Up 01

一般会計補正予算（第8号）

（主な事業および内容）

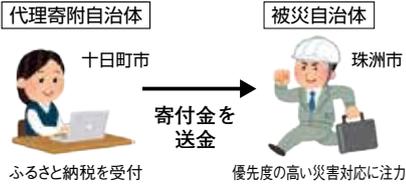
● とおかまち応援寄附金募集経費

ふるさと納税「とおかまち応援寄附金」が、当初の見込みを上回るペースで推移していることから、これに伴う返礼品等の事務経費を増額します。また、ふるさと納税制度を活用して販路開拓を行う市内事業者を対象とした「十日町市返礼品発信力強化事業補助金」について、申請件数の増加に伴う追加補正を行います。



● 災害支援代理寄附金※

令和6年9月の能登豪雨により甚大な被害が出ている石川県珠洲市を支援するため、ふるさと納税の代理寄附受付を令和6年10月21日～12月31日にかけて行い、寄附金として珠洲市に送金します。 ※災害支援代理寄附：繁忙な被災自治体に代わり、他の自治体があるさと納税の受付業務を行い、被災地に寄附金を届けるもの。



● 医師研究資金貸与事業

市内の病院に勤務する若手医師に医師研究に必要な資金を貸与し、医師の確保及び資質の向上を図り、当市の医療の充実につなげます。



● 医療施設整備等支援事業

市民に安心・安全な医療サービスを提供するため、市内の医療機関に対し後継者補助と医療機器の更新を支援します。

● 経営継承・発展等支援事業

先代の事業者から継承した農業経営を発展させるため、後継者の経営発展計画に基づく機械施設の整備、販路拡大等の取り組みを行うための経費を支援します。



Pick-Up 02

人事議案

任期満了に伴う人事議案が提出され、同意しました。

【人権擁護委員】

瀧澤 淳子 氏

Pick-Up 03

意見書の提出

議員が提出した次の意見書を可決しました。

内閣総理大臣をはじめ国の関係機関や国会に提出し、その実現を図るよう要望します。



● 北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書

● 30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度堅持に係る意見書

● 「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書

賛否等の状況

賛否が分かれた議案のうち、起立採決等により個々の賛否が明らかな議案について掲載。（○：賛成、×：反対、－：欠席）
※鈴木一郎議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決（賛成・反対の意思表示）権はありません。

議案番号等	議決結果	賛成	反対	かがやき					伸 暢		令和の風				日本共産党 十日町市議団			新 成 会			無 会 派						
				村山達也	富井高志	水落静子	関口立之	山家悠平	高橋俊一	鈴木祐一	吉村重敏	根津年夫	山口康司	星名大輔	大嶋由紀子	遠田延雄	鈴木和雄	滝沢 繁	富井春美	福崎哲也	小林寛暁	宮沢幸子	小嶋武夫	小林正夫	滝沢貞親	嶋村真友子	鈴木一郎
112	原案可決	18	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
113	原案可決	21	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
118	原案可決	19	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
119	原案可決	20	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
133	原案可決	22	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
請4	不採択	4	19	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
議8	原案可決	21	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×

12月定例会 議決結果

議案番号等	件名	付託委員会	採決状況	議決結果		
市長提案	106	専決処分の承認について（令和6年度十日町市一般会計補正予算（第7号））	—	全員賛成	承認	
	107	人権擁護委員候補者の推薦（瀧澤 淳子（たきざわ じゅんこ）氏）	—	全員賛成	同意	
	108	物品購入契約の締結（追認）	—	全員賛成	原案可決	
	109	新潟県市町村総合事務組合規約の変更	—	全員賛成	原案可決	
	110	刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定	—	全員賛成	原案可決	
	111	指定管理者の指定（越後妻有文化ホール及び十日町市中央公民館）	総務文教	全員賛成	原案可決	
	112	十日町市清津峡渓谷歩道トンネル条例の一部を改正する条例制定	産業建設	賛成多数	原案可決	
	113	指定管理者の指定（十日町市健康増進施設、十日町市川西総合緑地公園、里創プラン川西ステージ及び千手温泉）	産業建設	賛成多数	原案可決	
	114	指定管理者の指定（ミオンなかさと、ゆくら妻有、十日町市清津峡渓谷歩道トンネル及び清津川フレッシュパーク）	産業建設	全員賛成	原案可決	
	115	指定管理者の指定（十日町市まつだい芝峠温泉施設、十日町市松代ファミリースキー場及びまつだいふるさと会館）	産業建設	全員賛成	原案可決	
	116	市道の変更	産業建設	全員賛成	原案可決	
	117	市道の認定	産業建設	全員賛成	原案可決	
	118	十日町市まちなかステージ条例の一部を改正する条例制定	産業建設	賛成多数	原案可決	
	119	十日町市都市公園条例の一部を改正する条例制定	産業建設	賛成多数	原案可決	
	120	指定管理者の指定（十日町市利雪親雪総合センター）	産業建設	全員賛成	原案可決	
	121	十日町市地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定	厚生	全員賛成	原案可決	
	122	指定管理者の指定（十日町市身体障がい者福祉センター）	厚生	全員賛成	原案可決	
	123	指定管理者の指定（川西高齢者コミュニティハウス）	厚生	全員賛成	原案可決	
	124	令和6年度十日町市一般会計補正予算（第8号）	—	全員賛成	原案可決	
	125	令和6年度十日町市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	—	全員賛成	原案可決	
	126	令和6年度十日町市国民健康保険診療所特別会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	127	令和6年度十日町市訪問看護事業特別会計補正予算（第2号）	—	全員賛成	原案可決	
	128	令和6年度十日町市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	129	令和6年度十日町市介護保険特別会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	130	令和6年度十日町市水道事業会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	131	令和6年度十日町市簡易水道事業会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	132	令和6年度十日町市下水道事業会計補正予算（第2号）	—	全員賛成	原案可決	
	133	十日町市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定	—	賛成多数	原案可決	
	134	十日町市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定	—	全員賛成	原案可決	
	135	十日町市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定	—	全員賛成	原案可決	
	136	十日町市職員の寒冷地手当に関する条例の一部を改正する条例制定	—	全員賛成	原案可決	
	137	令和6年度十日町市一般会計補正予算（第9号）	—	全員賛成	原案可決	
	138	令和6年度十日町市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	139	令和6年度十日町市国民健康保険診療所特別会計補正予算（第4号）	—	全員賛成	原案可決	
	140	令和6年度十日町市訪問看護事業特別会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	141	令和6年度十日町市後期高齢者医療特別会計補正予算（第4号）	—	全員賛成	原案可決	
	142	令和6年度十日町市介護保険特別会計補正予算（第4号）	—	全員賛成	原案可決	
	143	令和6年度十日町市水道事業会計補正予算（第4号）	—	全員賛成	原案可決	
	144	令和6年度十日町市簡易水道事業会計補正予算（第4号）	—	全員賛成	原案可決	
	145	令和6年度十日町市下水道事業会計補正予算（第3号）	—	全員賛成	原案可決	
	請願	4	年金積立金を活用して安心して生活できる公的年金を求める請願	厚生	賛成少数	不採択
		5	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度堅持に係る意見書の採択を求める請願	総務文教	全員賛成	採択
		6	「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の採択を求める請願	総務文教	全員賛成	採択
	議会提出議案	6	北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書	—	全員賛成	原案可決
		7	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度堅持に係る意見書	—	全員賛成	原案可決
8		「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書	—	賛成多数	原案可決	
9		議員派遣	—	全員多数	原案可決	

ココが聞きたい! 一般質問

一般質問は、議員個人が問題意識を市政に投げかけ、市の見解を直接求めることができる唯一の機会です。今回は、14人が私たちの生活に関わることについて質問をしました。

質問議員	質問事項	ページ	質問議員	質問事項	ページ
星名大輔	農業者のふるさと納税活用、介護予防実施主体の支援拡充	4	滝沢貞親	明石の湯経営状況、第九回大地の芸術祭開催状況について	8
鈴木祐一	ZCへの取組状況と文化財保存活用地域計画について	5	富井春美	新たな中学校の統合とマイナ保険証について	8
山口康司	高齢化した山間集落の支援、柏崎刈羽原発再稼働について	5	嶋村真友子	オーガニック給食で有機農業の拡大の一步を!	9
根津年夫	十日町市の健康まちづくりとスポーツ政策について	6	鈴木和雄	いっそう地域活性化と市民が主体に向けた事業展開を!	9
関口立之	移住・定住に関する取り組みの現状と課題について	6	滝沢 繁	人口減少問題と冬の課題・投票率を上げるには	10
中林寛暁	緊急時の電源確保及び支援と市報とおかまちについて	7	山家悠平	空き家と廃校の利活用について	10
大嶋由紀子	運転免許の自主返納制度、中途失聴・難聴者支援について	7	福岡哲也	上沼道、市道高山水沢線の他、空き家対策について	11

農業者のふるさと納税活用、 介護予防実施主体の支援拡充

星名大輔 議員

質問 農業者のふるさと納税活用状況と返礼品を販路にしようとする頑張る農業者を支援する考えは。

答弁 農業者のふるさと納税活用状況について、返礼品のうちお米が選ばれる割合は、昨年度が全体の約4割、寄附額は約3億2,000万円でした。今年度10月末時点のお米の割合は6割を超えており、この7か月間で既に3億3,000万円と、昨年度を上回っています。農業者への支援については、ふるさと納税制度未活用の農業法人や認定農業者20件以上の方々、現在、返礼品協力事業者としての登録に向けた対応を進めています。また、今年度は制度の周知を目的にセミナーを2回開催し、10月には都内で開かれたふるさとマルシェに市内4事業者が出展し、試食販売・PRを行いました。ふるさと納税制度は農業者にとっても大きな販路になることから、市としても引き続き支援を進めます。

質問 昨今の物価高騰などから、訪問型サービスB事業や高齢者・障がい者安心サービス事業の実施主体も様々な負担が増えているようです。実施主体の支援を拡充する考えは。

答弁 市内のNPO等6団体が介護予

防のための生活援助を訪問型サービスB事業として実施しています。支援の拡充については、介護職員等処遇改善加算の改定により、訪問介護サービスの報酬を2・1%上乗せ適用したいと考えています。併せて、制度改正により、要支援者が要介護認定後もこの事業を継続利用できることになった点も考慮し、新年度予算では、負担感軽減等を考慮して適正な対価となるよう検討します。高齢者・障がい者安心サービス事業では、支援員不足に対応するため、参加いただける支援者が増えるよう事業周知を強化します。



ふるさと納税の活用



ZCへの取組状況と文化財保存活用地域計画について

鈴木祐一 議員



質問 本市は2020年にZC(ゼロカーボンシティ)を表明し、2050年には二酸化炭素排出実質ゼロを目指しています。第二次総合計画での市内総電力消費量30万MWhのうち9万MWhのを再生エネ^{※2}で創出するための施策と市内の現状についてお尋ねします。

答弁 公共施設への太陽光パネル設置や、市民・民間事業者向けの再生エネ設備導入補助を進め、着実に成果が上がっています。また、民間事業者による木質バイオマス発電所の試運転が始まり、再生エネ創出に加え、雇用創出や森林整備等の二次的効果にも期待しています。今後再生エネ事業を促進し、ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを継続的に進めていきます。

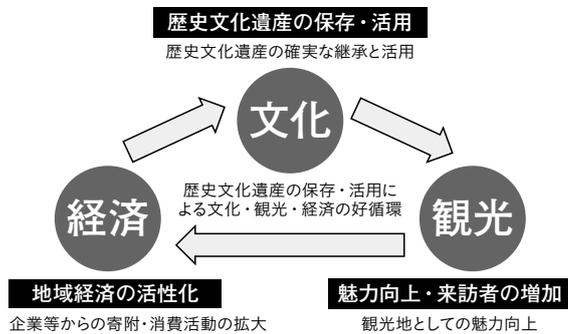
質問 十日町市文化財保存活用地域計画は、文化・観光・経済の好循環を目標にしている守備範囲の広い計画です。目標実現の為に計画をどの分野から現実的に進めようと考えているか方向性についてお尋ねします。

答弁 現在の取り組みとして、文化財の保存・整理では、管理者や保存団体への助成を行い、その活動を支援しています。普及・啓発では、重要文化財「星名家住宅」や、国登録文化財「角屋社

屋別館」を一般公開しています。活用・推進の代表的なものとして、国宝出土地の笹山遺跡を再整備する基本計画策定を、学識経験者や観光関係者、地元

の市民からなる笹山縄文広場整備検討委員会を組織し、検討を進めています。このほか歴史文化遺産を活用した旅行商品や、雪国の食文化等を体験するプログラムの開発、歴史文化遺産と大地の芸術祭との連携事業等にも取り組めます。そして、これらの事業を一体的に推進するため、文化財保存活用推進協議会(仮称)を設置します。

文化・観光・経済の好循環のイメージ図



※1 MWh→メガワットアワーの略 ※2 再生エネ→再生可能エネルギーの略

高齢化した山間集落の支援、柏崎刈羽原発再稼働について

山口康司 議員



質問 中山間集落では、高齢者だけの一人世帯や二人世帯が急速に増え、自助・共助が思うようにならず、集落の維持管理が難しくなっている状況です。中山間集落の高齢者に対する災害時、大雪時の支援について伺います。

答弁 市内ほぼ全ての町内に自主防災組織が設立され、高齢化で活動が難しい場合は周辺組織との連携が重要です。市では、災害時に誰がどのように高齢者等を支えるかを想定する「個別避難計画」や、地域における「地区防災計画」の策定支援を行っており、防災備蓄、住宅の耐震補強、要援護世帯の除排雪への支援等も行っています。さらに防災を支える人材として新たに防災士育成にも取り組めます。

なお、大規模災害時には自衛隊の派遣要請や国県・関係機関等と連携して救助、復旧、復興に取り組めます。

質問 柏崎刈羽原子力発電所は、7号機の核燃料が装填され、再稼働の準備を整えています。原子力災害時の避難方法や避難訓練、さらに夜間の大雪時に道路除雪が間に合わない場合、どのような対応策を講じますか。

答弁 原子力災害時の避難方法は市の「地域防災計画」に定めており、発電

時には国の基準により、発電所からの距離が概ね半径5キロ圏内(PAZ)と概ね半径5キロから概ね30キロ圏内(UPZ)の2つの区分に沿って、事態の進展に応じた行動を取ります。本市は、下条地区並びに川西地域の一部、松代地域の一部がUPZに含まれており、人数は約5千5百人です。UPZでは、まず屋内退避をすることになっています。避難訓練では、原子力災害のリスクや防災知識の普及に努めています。夜間・大雪時の除雪には課題がありますが、自衛隊などの協力を盛り込んだ計画検討が進められています。



十日町市の健康まちづくりとスポーツ政策について

根津 年夫 議員



質問 これからの十日町市にとって健康な人を増やすことは重要な課題です。また、高齢者の健康寿命の延伸にはスポーツが有効と言われています。そこで以下について伺います。①「健康まちづくり」と「スマートウェルネスシティ」に向けた今後の方向性②「スポーツ健康都市宣言」による取り組みと成果③生涯スポーツの推進④スポーツによる地域活性化と施設環境整備⑤中学校部活動（運動部）の地域移行の現状と課題

答弁 ①当市は「健康とおかまち21」の施策に基づき、社会で個人の健康を支える環境整備や地域資源活用の推進を行っており、「健康まちづくり」や「スマートウェルネスシティ」の理念と大きな違いはないと考えます。②当市は「健康とおかまち21」の施策に基づき、社会で個人の健康を支える環境整備や地域資源活用の推進を行っており、「健康まちづくり」や「スマートウェルネスシティ」の理念と大きな違いはないと考えます。③生涯スポーツの推進④スポーツによる地域活性化と施設環境整備⑤中学校部活動（運動部）の地域移行の現状と課題

と大きな違いはないと考えます。②当市は「健康とおかまち21」の施策に基づき、社会で個人の健康を支える環境整備や地域資源活用の推進を行っており、「健康まちづくり」や「スマートウェルネスシティ」の理念と大きな違いはないと考えます。③生涯スポーツの推進④スポーツによる地域活性化と施設環境整備⑤中学校部活動（運動部）の地域移行の現状と課題



移住・定住に関する取り組みの現状と課題について

関口 立之 議員



質問 新型コロナウイルス感染症に関する国の特別措置が昨年度で終了。しかし「ブーム」と言われた移住に対する関心の高さは続いています。移住・定住に関する当市の政策は拡充していますが、その成果と課題について伺います。

①昨年度以降の新事業と利用状況②令和2年度からの問合せ窓口、空き家バンク、関連イベントの利用者数の推移③大地の芸術祭などの大型イベントと移住・定住者の動きの関連④今後の移住・定住政策の中長期的な方針

答弁 ①市外在住のファミリー層向けにまつやま学園の雪里留学体験ツアーを夏と冬開催し、14組42名が参加、地域の魅力発信につながりました。また、今年度新たに首都圏の単身女性向けモニターツアーを開催、19名から応募があり、これをきっかけに移住した方、検討中の方がそれぞれ1名います。②移住相談窓口の開設により相談者が増え、毎年20〜30人が当市へ移住しています。イベントの参加状況は、令和4年度はオンラインによる移住者向けイベントに13人が参加、令和5年度は対面による移住者交流会など7回開催し、105人の参加がありました。③地域おこし協力隊は、これまでに105名が活動しており、当市の選定理由に、大地の芸術祭開催地であることを一番に挙げています。また、退任した86名のうち63名が定住、定住率は73・3%です。NPO越後妻有里山協働機構の37名中26名が市外からの移住者で、FC越後妻有の監督や選手も全員が市外から移住した方です。地域の特性を活かしたイベントが移住定住に好影響を与えています。④若者のUターンを促進するための地元企業の魅力発信や、2地域居住者の支援強化など、移住者増加を目指す施策を検討していきます。

①昨年度以降の新事業と利用状況②令和2年度からの問合せ窓口、空き家バンク、関連イベントの利用者数の推移③大地の芸術祭などの大型イベントと移住・定住者の動きの関連④今後の移住・定住政策の中長期的な方針



十日町市が発行している移住定住検討者向けの情報誌

緊急時の電源確保及び支援と 市報とおかまちについて

中林 寛 議員



質問 ①PCやスマートフォンは災害などの緊急時において、情報収集や家族との連絡など避難所生活に必要な不可欠と考えるが、避難所の非常電源確保はどのようになっているか。②日常的に電源が必要な医療機器利用者や地域への非常用発電機の支援はできないか。

答弁 ①市は、49の指定避難所のうち20施設に非常用電源を備えています。非常用電源のない避難所が停電した場合は、市が保管する発電機を搬入します。今後は避難所等での照明・暖房器具や携帯端末などに速やかな給電ができるよう非常用電源の確保を検討していきます。②重度の障がいをお持ちの方や難病患者の方には、上限額がありますが、日常生活用具の購入費用の9割を給付しています。非常用電源装置はこれまで給付対象外でしたが、電気式たん吸引器など電源が必要な機器を使用している方がいるため、給付対象に追加する準備を進めています。

質問 当市のような出来事、予定などを市民へ知らせる重要な「市報とおかまち」。掲載内容の確認はどのように行っているか。また、多くの市民に読んでいただく取組みを伺う。

答弁 掲載内容の確認については、各

課に責任者として広報主任を配置し、課の担当者として記事のチェックを行っています。また、市報編集担当の企画政策課でもチェック作業を行うなど、2段階で確認作業を行っています。市報を読んでもいただくための施策については、市のホームページにデジタル版を公開しています。また、発信する情報は端的な内容とし、詳細な情報は二次元コードから取得できるようにしています。特集記事では写真を多く使用し視覚的にアピールすることで、読みたいと感じてもらえるような誌面作りを心掛けています。



運転免許の自主返納制度、 中途失聴・難聴者支援について

大嶋 由紀子 議員



質問 ①高齢ドライバーやそのご家族が、加齢に伴い運転を続けることに不安を感じた場合の相談先はありますか。②当市は免許自主返納支援事業がありませんが、どのようにお考えですか。

答弁 ①十日町警察署や十日町地区交通安全協会、十日町自動車学校では、運転に不安を感じた方の相談をお受けしています。買い物等の生活上の不安がある場合は、地域包括支援センターを紹介するなどしています。また、県警の運転免許センターでは、ご家族からの相談にも対応しています。②当市では、高齢者向けの交通安全対策や公共交通網整備を進めています。自主返納支援は、もともと免許を持つていない方との公平性を保つため、事業化は予定していませんが、バスやタクシーなどの利用促進、コミュニティバス運行支援などを検討しています。

質問 ①聴覚障がいがあっても、聞こえる人と同じ場所と同様に情報を得られるための環境づくりが必要と考えます。どのような支援がありますか。②聴こえサポートうさぎ・十日町要約

筆記サークルの活動について伺います。**答弁** ①聴覚障がい者の社会生活支援のため、講演会や病院受診、就職面接等の場面に手話通訳や要約筆記の意思疎通支援者を派遣しています。また、補聴器や日常生活用具の給付、18歳未満の難聴児への助成、18歳以上の難聴者への補聴器購入費助成など、全世代へのコミュニケーション支援を行っています。②聴こえサポートうさぎ・十日町要約筆記サークルは会員9名で、要約筆記の技術向上などに取り組んでいるとのこと。また、市の意思疎通支援者としても活躍いただいております。今後協力して、聴覚障がいに対する理解促進と支援を進めていきます。



免許証返納者支援の一例
(千年の湯 毎月10・11日無料)

明石の湯経営状況、第九回大地の芸術祭開催状況について

滝沢貞親 議員



質問 「明石の湯が「レジオネラ属菌」検出により、休業しました。現在の経営状況、運営実態を伺います。①「里山協働機構」に指定管理移行後の入場者数、売上額など②「大地の芸術祭」との連携効果③「レジオネラ属菌」発生原因

答弁 ①入場者数は、4月から11月まで延べ2万4,964人で、1日の平均入場者数は149人です。売上額は、9月までの速報値で入館料が1、191万円、自販機の手数料や物販等の売上げが約400万円です。②明石の湯のエントランスに作品を展開し、回廊棟と一体化した魅力を創出したことで、明石の湯の入館者数は1日3000人を超える日もあり、パスポート割引は全体の24%に及んだことから、芸術祭との連携により集客効果があったものと考えます。③十日町保健所が浴場施設の衛生管理を確認しましたが、原因は特定できませんでした。レジオネラ属菌は自然環境にも生息しており、検出経路の特定は困難と考えております。

質問 大地の芸術祭「アートトリエンナーレ2024」が終了しました。その開催状況について伺います。①入場者数、パスポート販売数など②今後の

課題とその対応について

答弁 ①入り込み客数は、延べ54万5,931人で、1日当たりの人数は前回展で3,935人、これに対し今回展は6,091人と約1.5倍の入り込みとなりました。パスポートの販売数は、概算で約3万冊です。②中山間地域においては、少子高齢化により参加困難の地区が出たり、スタッフ確保に課題があり、より多くの市民や企業の関与が必要と感じています。また、大地の芸術祭も四半世紀が経ち、老朽化した作品の修繕や、撤去を含めた整理を行う必要があると考えています。



新たな中学校の統合とマイナ保険証について

富井春美 議員



質問 あり方検討委員会の統合のイメージ図の提案については、各地域住民の声を聞くことが必要と考えるが、いかがか。

答弁 あり方検討委員会が真剣に議論し、まとめた提言内容を具体的にイメージでできるように作成した素案を検討のたたき台に、地域自治組織とさらなる研究・協議を重ね、引き続き丁寧に学区編成計画の再構築を進めていきます。

質問 30年後の生徒数減少を前提に中学校を1校にする考えではなく、人口減少を变えるという考えについて、市長はどう考えるか伺います。

答弁 人口減少が続くことに固執した計画はリスクが伴うと考えます。地方の逆襲を起こそうと頑張っていますが、子どもの数がV字回復することは難しいと思います。やはり10年後、30年後を見据えて計画を立てることが重要だと考えます。長期的な方向性を見た中で議論し、10年先、30年先に向けて現在の10校を再編することが子どもたちの学びに資すると考えています。

質問 健康保険証の新規発行が停止されたことから①マイナンバーカードの更新時の健康保険はどうなるか。②マイナ保険証の解除はできるか伺います。

答弁 ①カード本体の更新方法は二つあります。一つ目は、ご自身がスマホ等で申請する方法です。新カードを窓口で受け取るまでは、これまでのカードをマイナ保険証として使用できます。二つ目は、市窓口で申請する方法です。基本的にこれまでのカードを窓口で回収しますので、新カードが届くまでは、ご自身で保険者に資格確認書の交付申請が必要になります。②マイナ保険証は解除可能ですが、ご自身で加入している保険者に申請する必要があります。なお、国民健康保険・後期高齢者医療保険は市窓口で対応でき、解除後は資格確認書を交付します。

地域コミュニティの核としての性格を有する学校



中学校の学区再編は様々な声を出し合い議論を!

オーガニック給食で有機農業の拡大の一步を!

嶋村真友子 議員



質問 ①オーガニック給食の導入の必要性についてどう考えるか。②オーガニック給食推進協議会の立ち上げについての考えは。③保育園でもオーガニック食材を取り入れてはどうか。④有機食材の販路として学校給食への納入について市長の考えは。

答弁 ①有機農産物や減農薬栽培の野菜を活用した給食は、安全・安心を提供し、環境負荷を低減するものと考えています。現在、学校給食では地産地消を推進しており、今後、市内農業者による有機栽培が拡大し、有機農産物が安定供給されれば積極的に取り入れたいと考えます。②現在、「十日町市学校給食地産地消推進委員会」があり、市内農業者や栄養教諭、納入事業者が参画しています。こうした既存の組織と連携し、有機栽培や減農薬栽培等を広げ、安全・安心な給食の提供を推進していきます。③市内の保育園等では、有機食材を使用しておらず、今後の使用予定もありませんが、国内産や地元産の食材を優先的に取り入れ、安全で多彩な献立を提供するように努めます。④意識の高い農業者が、使用量の多い学校給食に計画的に食材を納入するなど地産地消の取り組みの中で、農

業者に利益が還元されることは非常に重要だと考えています。

質問 ①有機農業推進計画は。②有機農業の情報交換の場はあるか。

答弁 ①国の環境保全型農業直接支払制度を活用し、農業所得の向上と特別栽培農産物の拡大を図りつつ、JAS有機農業へステップアップすることが重要であり、JA魚沼など農業関係団体と連携し、持続可能な農業の推進に取り組みます。②環境保全型農業直接支払交付金についての説明会の際に、横連携の可能性も含めて情報収集したいと考えています。



オーガニック給食マップサイト 二次元コード
全国のオーガニック給食の取り組みが満載!

12月7日に段十郎で
開催されたオーガニック
フェスタ チラシ

いっそう地域活性化と市民が主体に向けた事業展開を!

鈴木和雄 議員



質問 大地の芸術祭は事業費の87%が委託で運営されている。その内訳はアートフロントギャラリー、総合ディレクター、NPO里山協働機構で委託総額43億円の大半(32億円)を占めている。こうしたお金の流れでは地域活性化に結びつかない。説明責任をどう果たすのか。

答弁 経済効果は市民にしっかりと還元されるべきだと思います。例えば土市の駅前の作品は市内の工務店が作成したものです。世界に誇れる作品であり、北川さんのディレクションを受けて実現したものです。また、最近、若者が芸術祭とビジネスを絡め、清津峡でドジョウや地元のお米を販売するなど、積極的にビジネスを展開している方がおります。芸術祭での人の流れを、ビジネスチャンスとして生かしてほしいと訴えていくべきと考えています。

質問 第8回展覧総報告書に「芸術祭を活かすことが困難である集落が顕在化している」とある。地方公共団体として、市民の暮らしに責任を持つ行政として、その姿勢が問われている。

答弁 自然や棚田など残されている資源の価値を再認識し、それらを活かしたまちづくり賛同する市民や応援団

の方々によって、地域が形成されていくと感じています。例えば、松代に10町歩ある棚田は、FC越後妻有が管理し、その取り組みを企業が応援しており、そこで収穫したお米を販売したり、株主優待で使うなどの動きがあります。高齢化が進んでいる中でも、若者が新しい価値観を持って、地域を支えていくまちになればと考えています。美しい風景や文化を守り、大地の芸術祭の作品群を生かしながら、他にはない人々を引きつけられる地域として選ばれる存在になれるのではないかと思います。

●大地の芸術祭 第6回展から第8回展事業費及び委託費

実行委員会事業費総額	18.9億円
特定財源：92.7%	一般財源：7.3%
市単独事業費総額	29.7億円
特定財源：57%	一般財源：43%

委託費の内訳

AGF	総合ディレクター	NPO里山協働機構	市内事業所
21億4千万円	6,500万円	10億2千万円	10億8千万円
74.9%			25.1%

四施設の建設費(工事費・設計監理・土地代)

キナーレ	光の館	農舞台	キョウコ
33億1千万円	2億1千万円	9億3千万円	9億4千万円

鈴木和雄議員作成

人口減少問題と冬の課題・投票率を上げるには

滝沢 繁 議員



質問 人口減少をどう捉えるか。

答弁 人口減少対策を市の最重要課題とし、特に子育て支援の充実や、移住定住の促進に力を入れてきました。また、松之山では観光資源を活用し、地域ブランド力を高めて発信することが肝要であり、今後も選ばれて住み継がれるまちを目指し、取り組んでいきます。

質問 ①物価上昇を踏まえ要援護世帯除排雪援助事業での融雪屋根に対する灯油補助の引き上げを。②冬期集落保安要員の待遇改善を。③福祉灯油の制度化を望むがいかがか。

答弁 ①令和3年度に多雪区域を新たに設定し、助成額を5千円増額しました。また、近年では物価高騰対策として給付金支給を行っており、制度の見直しは当面予定していません。②作業単価は物価高や人件費を考慮し毎年改定しており、地域に合わせて活用できる集落支援制度も活用していただくよう引き続き周知に努めます。③令和3～5年度に、県と連携し物価高騰対策として灯油購入費を助成。時勢に応じた緊急対策として今冬は、政府の総合経済対策を踏まえ、対応予定です。

質問 ①投票率を上げる対策は。②2階に投票所があり、投票に行きたくないという声があるが改善できないか。

答弁 ①令和3年4月の市長・市議会議員選挙から、現在の57投票所とし、地元との協議で統合により離れた投票所へは移動支援を実施しています。十日町、川西、中里地域では公共交通に委託、松代地域では市営バスを臨時運行しています。松之山地域においては、移動支援の要望がなかったため実施はしておりません。②建物の1階が狭いため2階に設置している投票所があります。投票日に投票できない場合は期日前投票が可能です。今後改善要望を伺いながら対策を検討します。



冬の暮らしを地域で支え、行政が守る

空き家と廃校の利活用について

山家 悠平 議員



質問 空き家バンクの取り組みに関わるミッション型地域おこし協力隊の活動状況は。

答弁 今年度からミッション型地域おこし協力隊を1名任用し、空き家に関する相談対応や物件調査、情報発信を行っております。また、移住コンシェルジュと連携し、スムーズな相談対応を実施、令和6年11月末時点で新規登録物件13件、成約物件8件となり、昨年度実績に相当する成果となっております。

質問 空き家の利活用の面から民泊、宿泊サービスを提供する企業と地域協定を結んではどうか。

答弁 これまで市内において、サービス提供企業と連携する宿泊施設に広がりがありませんでした。市としては、空き家バンク制度の利用促進を図るため、ミッション型地域おこし協力隊による空き家の利活用に取り組んでおりますが、今後はサービス提供企業との地域協定も含めて、必要に応じて民間のノウハウも活用していきます。

質問 廃校を地域資源として活用するために①市の施策は②小中学生の意見を聞く場を設けてはどうか。

答弁 ①閉校後は、積極的に利活用を進めており、民間企業への売却や貸し出しで、工場として再生され雇用を生み出したり、冬のキャンプ施設として人気を博したりしています。また、大地の芸術祭の作品として絵本と木の倉庫美術館などに再生され地域に賑わいを生んでいます。その他、地域集会所や作業場など何らかの形で利活用されています。なお、利活用の見込みがない施設は順次解体撤去を進めています。②学区再編については、大人が責任を持つて考え方を示したうえで、子どもたちに関わってもらい、より良いものにしていくことが最善の方法と考えます。

物件登録手続き
 新潟県十日町市 空き家バンク

売却・賃貸
物件募集

十日町市空き家バンク制度
十日町市の「空き家」を探している方へ、物件情報を紹介をする制度です。

お手続きの流れ

- ① 申込書類を十日町市企画政策課に提出 (十日町市移住コンシェルジュでも可)
 [申込書類] ■ 登録申込書 ■ 登録カード (物件情報) ■ 誓約書
- ② 書類審査 登記事項、申込書類の記載内容を確認します。
- ③ 物件確認 物件の現状確認等を行います。
- ④ 最終審査
- ⑤ 物件情報の公開

十日町市移住コンシェルジュとの連携

上沼道、市道高山水沢線の他、 空き家対策について

福崎 哲也 議員



質問 上越魚沼地域振興快速道路と高山水沢線の進捗状況について伺います。

答弁 上沼道・十日町道路は、平成31年に事業化され、令和4年に中心杭打ち式が行われました。現在、道路設計、地質調査、用地買収が進み、用地買収の合意調印式も行われました。八箇峠道路では、関越自動車道下にボックスカルバートを築造中で、関越道に直結する区間の整備にかなりの時間を費やしていますが、早期開通を望んでいます。上沼道の早期開通に向け関係機関に繰り返し要望していきます。

市道高山水沢線は、十日町道路へのアクセスや市内交通ネットワークの強化に重要な路線であると考えます。これまで詳細設計や橋りょう設計が完了し、起点部では用地買収と物件補償も一部完了しています。

今年度は起点部の盛土工事や用地買収を進め、令和10年度の警察新庁舎の完成に合わせて付近道路を完成予定です。国や県と連携し、全線完成を目指します。

質問 十日町インター周辺の開発構想について、道の駅整備以外の構想はあるのか伺います。

答弁 インター周辺にさまざま



上沼道 十日町インター周辺イメージ



市内の空き家解体の様子

な機能を集積するのではなく、交通アクセスの優位性を最大限活用し、市内に点在する魅力ある資源と連携して、市全体の活力向上を図っていきます。

質問 十日町市内における空き家約810件の内、管理不適切な空き家約180件ある現状をどう考えるか伺います。

答弁 空き家は所有者皆様の持ち物であり、ご自身での管理が必要と考えている方が大方だと思います。しかし、想定外の家族状況の変化により、対応が後手になった事が実態だと思います。民間組織とも連携し福祉的サイドからのアプローチなど、市民の皆様への啓発活動を行う必要があると思います。

新年度予算編成作業について

各常任委員会の意見・要望を提出

12月16日に行われた全員協議会において、常任委員会ごとに取りまとめた新年度予算に対する提言を、各委員長が報告しました。市長からは、令和7年度は「第二次総合計画後期基本計画」や「第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が一区切りを迎えるため、さらに10年後を見据えた予算編成を行い、多様な高度な行政課題に取り組んでいく考えが示されました。

一方、市民サービスの維持・向上には持続可能な行財政運営が不可欠であり、とおかまち応援寄附金など自主財源確保や遊休資産の処分によるバランスシートのスリム化を図り、地方債についても中長期的視点で適切に管理していく考えも示され、「選ばれて住み継がれるまち」を目指し、予算編成に当たるとの所信が表明されました。

飛渡第一小学校6年生が議会を傍聴



飛渡第一小学校6年生2名が、12月定例会議一般質問の傍聴に訪れました。普段は入ることのできない議場を見学し、市議会の雰囲気を直接体験することで、行政と議会の役割について学びを深めていました。

の一部を紹介します。



また、他の会派については、前号及び次号をご覧ください。

の

Q&A



Q 政務活動費における会派とは？

A 政策を中心とした、同一の理念を共有する議員で構成された集合体のことをいいます。なお、十日町市議会では、会派の所属議員が1人の場合も含まれます。

Q 政務活動費とは？

A 地方自治法に基づく制度で、会派（市議会議員）の市政に関する調査研究その他活動に必要な経費の一部として、交付申請を行った会派に対し交付しています。

【所属議員】 鈴木和雄、滝沢 繁、富井春美

私達は11月、福島県喜多方市の「小学校農業科」と都立「第五福竜丸展示館」を視察見学しました。

小学校「農業科」は、平成18年から始まり現在「総合的な学習の時間」に実施されています。農業科のねらいは、「なすこと」によって学ぶ」考えに基づき、農作業の実験活動を重視した教育を展開することで、子ども達に豊かな心、社会性、主体性の育成を図るとしています。種から数か月間に関わる農作物の栽培活動を通して①農作物は「人の命をつなぐ大切なもの」であることやそれを育てる人への感謝の気持ちを学ぶ②地域の人達との関わりで地域の文化を学ぶ③より良い作物を収穫するために主体的な学習態度を育む④販売を通じてお金を得る重要性を学ぶなど、子どもの成長の基盤が育まれていることは重要です。

第五福竜丸展示館には、ビキニ環礁でアメリカの水爆実験で被爆した船員が乗っていた船、第五福竜丸そのものが展示されています。また、水爆実験や被爆した船員の状態などの説明や、入口に展示された千羽鶴がとても印象的でした。ノーベル平和賞を受賞した被団協の核兵器廃絶の運動はこの事件をきっかけに起こりました。十日町市「核兵器廃絶平和都市宣言」に基づき核兵器廃絶の運動は重要です。

日本共産党十日町市議団

【所属議員】 高橋俊一、鈴木祐一、吉村重敏

伸暢では、5月に北海道、11月に長野県と山梨県に視察を行いました。

北海道では、旭川市博物館・二風谷アイヌ文化博物館・仙台藩白老元陣屋資料館・民族共生象徴空間「ウポポイ」等を見学しました。

現在、先住民族アイヌの歴史と文化は北海道のルーツとして再評価され、全国にその価値が広く認識されています。特に、アイヌ文化を主題とした日本最北の国立博物館「ウポポイ」は、重要な観光拠点として機能しており、その点に深い感銘を受けました。

当市の日本遺産「なんだコレは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」も、今後、戦略的な取り組みを進めていくことで、経済的効果や社会的効果の双方が期待できるのではと実感しました。

また、長野県では雪国野沢温泉村コンパスハウスソーラー発電所を見学し、豪雪地での太陽光パネル設置は難しいといわれる中で、CO2削減を目指し、安全な雪国型太陽光発電の研究が進められており、今後に期待したいと思いました。山梨県ではリニア見学センター、岡田紅陽写真美術館等に伺い、岡田紅陽写真美術館では、市の担当者も同席し、文化交流が深まるように意見交換を行いました。

伸暢



政務活動費による活動

※政務活動費を申請した会派は、議会だより83号をご覧ください。



政 務 活 動 費

Q 交付額は？

A 十日町市では、会派に所属する議員1人につき年額15万円を、申請に基づき会派に交付しています。

Q 何に使えるの？

A 十日町市の条例・規則の規定に基づき、用途基準を定めています。例えば、先進地視察や研修会への参加、図書購入費用などに充てることができます。

【所属議員】 嶋村真友子

虹の輪

虹の輪では、勉強会への参加を中心に活動を行っています。

5月には滋賀県のJIAM全国市町村国際文化研究所で、「新人議員のための地方自治の基礎」講座に参加し、地方議会制度、自治体財政、政策、条例検討などを学びました。1期目でも4年目に入り、大卒を理解できて良かったと同時に、各市町村でも、新人議員研修の内容を充実させるべきだとも感じました。特に実際の条例を使ったグループワークでは、背景や懸念事項について熱い議論が交わされ、理解が深まりました。11月には群馬県前橋市の性教育推進プロジェクトの視察に伺いました。このプロジェクトでは「県内全ての子ども達に等しく包括的性教育を届ける」を目標に、「親子で楽しむ性教育フェスタ」の開催や性教育アドバイザーによる学校への出前授業などが行われています。その日も市内の高校で「自分と相手の為に知っておきたい性と命の話」と題した講演会があり、性的同意や相手との境界線（バウンダリー）、そしてコンドームの装着など実践を交えて紹介され、生徒たちは真剣に、そして楽しみながら参加していたのが印象的でした。十日町市でも取り組みが進むよう、自身の知識を高めながら、関係機関と連携を広めていきたいと考えています。

【所属議員】 小林正夫

だいち

7月に福井県を訪れ、勉強会への参加と福井県立恐竜博物館を視察しました。勉強会では、令和6年1月に発生した能登半島地震について、被災地域選出の近藤和也代議士から実体験に基づく被災状況の説明があり、地震災害の驚異を実感しました。また、日本の三大恐竜博物館のトップとも言われる県立恐竜博物館では、副館長から博物館での様々な取り組みや管理運営体制などのお話を聞くことができました。今年度の入館数が百万人を超え、累計で一千四百万人が訪れているとのことでした。

9月には、新潟市内で新潟県教育長の佐野哲郎氏の講演「岐路に立つ新潟県教育ー明日への一步を考える」を拝聴し、中長期的な視点で魅力と活力ある学校づくりについて学び、少子高齢化の中で進むべき学校運営について伺いました。11月には、新潟市にある公益社団法人にいた緑の百年物語緑化推進委員会を訪問し、来年度に向けての里山整備や植林活動への要望を行いました。





懇談会を開催しました

1月7日に、十日町公共職業安定所の井口所長と新潟県十日町地域振興局の加納局長を講師に迎え、市内の現状等についてお話いただきました。その後、議員と活発な議論が交わされました。



他市町村議会の行政視察を積極的に受け入れています

行政視察とは、全国の議会関係者などが先進的な取り組みを行っている自治体を訪れ、調査・研究する活動です。視察の受け入れを通じて、当市について理解を深めてもらい、情報交換を行うことで、市政の発展や政策の向上につながります。



兵庫県神戸市会

「使用済み紙おむつの燃料化実証事業について」



福島県会津美里町議会

「大地の芸術祭及びまちの産業発見塾について」

ラジオ「FMとおかまち」(78.3MHz)で一般質問を放送しています!

一般質問をした当日、夕方7時から放送していますので、ぜひお聴きください。

インターネットで本会議の様子を配信しています!



本会議の様を生中継・録画中継しています。ホームページからアクセスしてください。スマートフォン、タブレットでも!

十日町市議会

検索



市議会の詳しい情報は、十日町市議会のホームページをご覧ください



今号の表紙は

十日町高校写真部

の作品です。



十日町高校写真部は1年生2名、2年生11名、3年生8名で活動しています。学校行事の撮影やコンテストへの応募、撮影会への参加など、楽しく写真を撮っています。これからも見る人に喜んでもらえるような写真を撮ってまいります。

あとがき

植えた覚えのない一本の南天が、我が家の軒下で実を付けて数ヶ月。どんなに大雪でもここには積もらないので、枝が折れることがありません。この季節は白い雪に赤い実がよく映えて見るたびに癒されますが、よくよく観察すると、南天は実に表情が豊かで、若い緑、小さな花の一斉の開花、真紅の紅葉と、四季折々に小さな感動を分けてくれます。わが十日町市は大雪で名を馳せていますが、季節毎の自然の表情は住む人にも訪れる人にも大きな感動を与えてくれます。「見るたびに变化するから一年中目を離せない」。そんなドキドキする魅力に溢れていると思うこの頃です。(関口立之)

【お問い合わせ】

十日町市議会事務局

〒948-8501

十日町市千歳町3丁目3番地
市役所本庁舎3階

電話 025-757-3119

FAX 025-757-5999